

指導の形態	自立活動 ～個に応じた支援ツール（ICT等）の活用～	障がい種	注意欠陥多動性障がい （ADHD）
-------	-------------------------------	------	----------------------

授業の概要やよさ

- ・聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力において、一部又は複数の著しい困難がある場合には、それが国語や算数、数学、英語等の各教科の学習に影響することがあるため、児童生徒のつまずきの状態に応じた教科の補充指導が必要となる。
- ・通常学級での授業にスムーズに参加できるよう、自立活動を授業の「核」に据えた教科の補充学習の授業の組み方や、個に応じた「支援ツール」の工夫、開発を行った。

児童生徒の様子

- 小学校2学年男子
- 注意が長続きせず、問題がちよつとでも難しいと感じると取り組む前からあきらめる。
 - 聞いただけでは内容を理解することが難しいため、具体物等を用いての学習が必要である。
 - 数概念の発達が未熟で、数のみの計算は難しく、すぐにパニックになる。



目標

- 自立活動
 - ・新しい課題に取り組み、最後までやり終えることができる。
 - ・画面に集中して（画面を良く見て）、同じ動きが素早くできる。
- 算数
 - ・iPadの画面を見ながらちよつどのお金（○百△十□円、○・△・□は0～9。五・五十・五百円硬貨を使用）をそろえることができる。

支援のポイント

個の困りに応じた支援



授業の始めの5～10分間を「集中力を高める、達成感を高める」ことをねらいとし、視覚認知トレーニング（体を動かさず課題、集中力を高める課題）を行う

毎回授業の始めに行うことで覚醒レベルがアップした状態での指導が可能

自信を持ち、新しい課題に取り組むための支援



在籍学級よりも少し先の学習を行うことで、つまずきが予想されることや苦手なことへ対応する

見通しを持つことで、落ち着いて授業に臨むことができる



iPad + 透明シート
「お金を位マスに自由に動かせる視覚的な良さ」と、「iPadの画面に直接数字をかける良さ」を組み合わせた教材

通級指導で利用した学習ツール（児童の困りを支援するICT機器）を通常学級の授業でも活用する

